

イラスト「平安の心を以て祈る」 文月てら

薬王院誌報 三号

瑠璃光

平成二十三年 夏号

目次

一、住職挨拶	一頁
二、寺と檀徒墓地の状況	二頁
三、護持役員会紹介	四頁
四、行事のご案内	五頁
五、お知らせ	六頁



檀信徒の皆様には盛夏の候御盆を迎える時節、愈々ご清祥のことと存じます。

この度の震災、途方もない地震に、私も静まることを念じ、諸行無常を感じた天災でした。

薬王院も檀徒の皆様と共により被災いたしました。皆様のご自宅なども損傷された方もありと存じます。

亡くなられた方々に哀悼を捧げますと共に、被災されました方々に御見舞を申し上げます。

尚、墓地修復の留意点など御盆の行事と共に後に掲載いたしましたので、ご一読下さい。

さて、震災後、海外の報道は、被災した日本人達は、規律を保ち、助け合い過ぎている。日本の国民は、やさしく、強く、しなやかな心が備わり、助け合いの精神ができてきているなどと賞賛しています。

この要因には様々あると思いますが、古来より日本人は、自然の恵みを受

し、天災を受けても粘り強く立ち直り、自然を神仏として崇拝し、平安の心根で共に生きていたと思います。

この心根は、気合い、気迫、気概、強気、陽気、等々気のつく言葉が沢山用いられる通り、自然の波動、エネルギー、気を取り入れ、感じて生活していたことでしょう。

心は自分でもどうにもならないもので、その時の気分次第でめまぐるしく変わります。常にやさしい、思いやり

に満ちた気持ちでいたいものです。しかし、私達は、迷い、悩みいつも良いことばかり思うことはできません。むしろ、都合が悪い事があるほど、何かのせいにする事を思いがちです。

聖徳太子様は、この心を憂い、世間を治める手立てとして、十七条憲法に「第一条―和を以て貴しと為す」（和合

の心を大切にしないさい）「第二条―篤く三寶を敬え」（仏法僧を三つの宝と

思い、仏と法―經典による慈悲の教え 僧―仏教を信じる仲間と共に生きることを敬いなさい）と、人として共に生きる心根、仏教精神を提唱されました。

やがて人々は、大地自然の命は八百万の神と諸仏諸菩薩等の仏と一体という信仰のもと、畏敬の念を抱き、懺悔（反省と感謝）を込めて祈り、生活するようになつたと思えます。

その気質は、先祖代々傳承され、私達の心にも受け継がれていると思います。

「妙法蓮華經―お釈迦様が最も伝えたい經典―化城喻品」には、願わくば此の功德を以て（どうか祈りの功德により）普く一切に及ぼし（総ての方々

にゆきわたり）我等と衆生と（私達人と自然の命が）皆共に仏道を成さんことを（みんなが慈悲の心を育成して共に平安の心を得られますように）と自然と共生する真理を説いています。

やさしく、強い、しなやかな心とは、思いやり深く、悲しみや痛みを共に分かち合う慈悲の心に通じます。そこには平安の心が宿ります。

不安と期待の交錯している今、この心をもつて共に生きる復興を願いたいと存じます。

御盆を迎え、ご先祖様、日本人の心に思いをよせて、お祈りいたしましょう。

合 掌

寺・檀徒墓地の状況報告

一、檀徒墓地修復について

この度の震災・余震により、皆様の墓地は差はございますが、損傷・損壊・倒壊しております。

各墓地の通路は、寺で確保いたしました。墓地の状況は、墓地使用代表者の方、ご家族が必ず現地でご確認下さい。修復には必ず、専門の石材業者に委託し、ご自身では修復しないで下さい。

石塔などが、隣地に倒れるなどの場合、お隣との協議は、石材業者さんに依頼して下さい。

修復の現況は、三十パーセント位です。お盆までに修復をご希望と存じますが、ゆつくりと修復して下さい。

お盆・秋彼岸の墓参には、万一を考え、靴等危険の少ない服装をお心がけ下さい。

二、寺の被災状況

左の境内図（六頁に一部写真掲載）を参照の上、ご覧下さい。

① 本堂 国文化財

堂内引戸の南側三方所下棧にヒビ割れがあり、菱形にゆがみ、修復。

本尊厨子の扉受け材が曲がり、修復。

内陣右手「愛染明王」台座より落下、右耳を破損。

本堂前の石灯笼倒壊。×印
本尊他仏像は損壊無しでした。

② 回向堂

廊下側周囲の白壁にひび割れ。
仏具 灯籠倒壊し、修復。
同 磐台飾り材破損。修復
同 鑿子（いわゆる鐘）落下のため、ゆがみ。

③ 仁王門 県文化財

④ 四脚門 市文化財

共に損壊は無し

⑤ 歓喜天堂

堂内厨子・円壇損壊。修復中

⑥ 地藏堂

石地藏菩薩倒壊。修復

⑦ 書院 客殿

書院出入口口引き戸損壊。ガラスと鍵を交換修復

⑧ 庫裡・倉庫

×印 屋根瓦一部損壊。ブルーシートにて養生中

⑨ 墓地

⑩ 歴代墓地倒壊。修復

無縁墓地倒壊。修復中
各墓地通路の確保修復

⑪ 東光院南側外塀破損傾斜

隣家有りに付き、撤去板塀設置

⑫ 五輪塔 市文化財

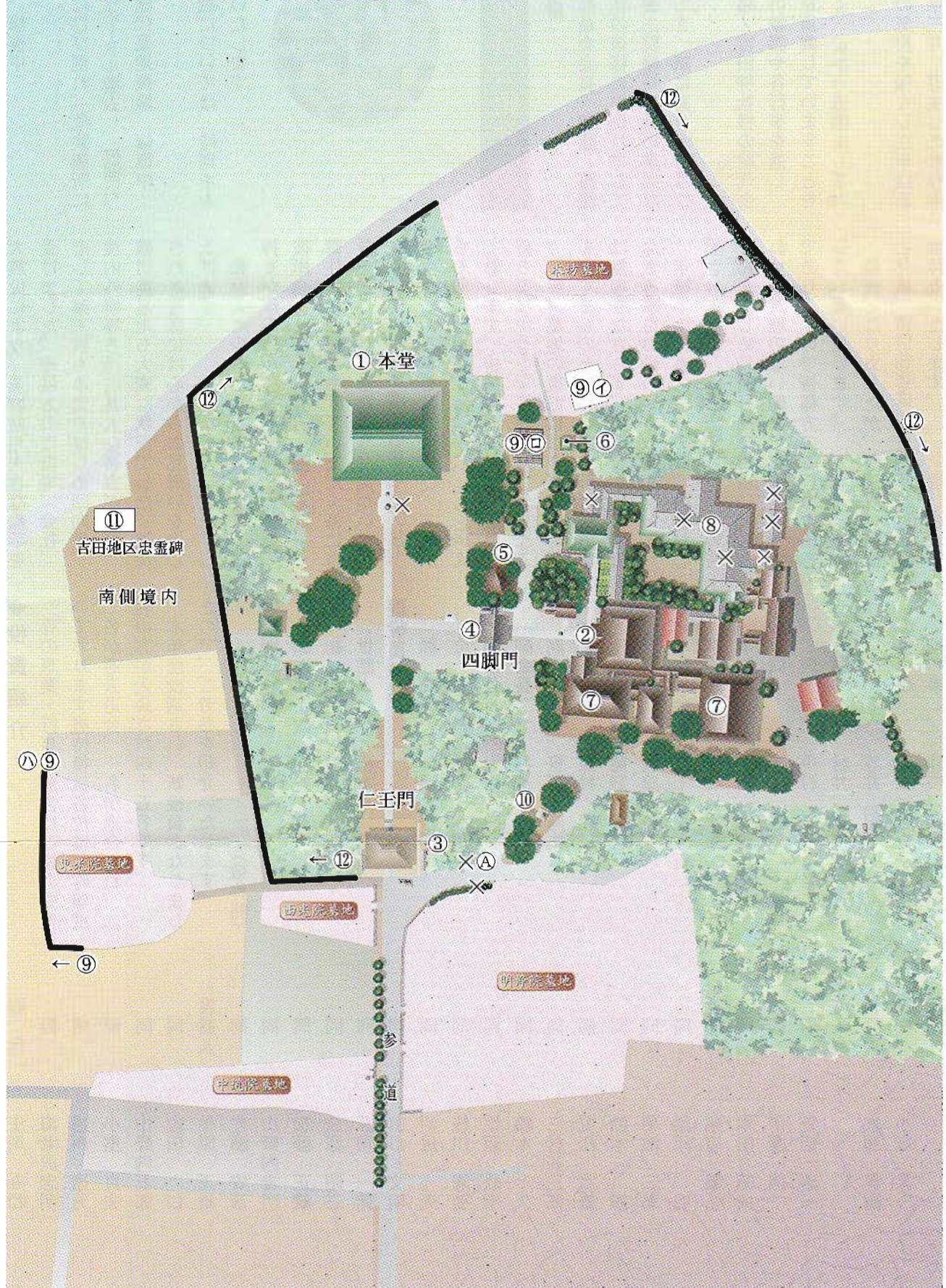
倒壊。修復中

⑬ 忠霊碑（南側境内）



合 掌

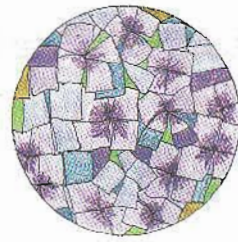
天台宗 吉田山 兼五院 境内全圖



⑫ 灯籠倒壊。修復中
境内外塀

各所柱根本にひび割れ。危険箇所につき、約七百メートル撤去し、仮囲い。口笠原不動院歴代墓地損壊。修復中

*損壊中の施設については、時期をみて徐々に修復いたします



護持役員会紹介

◆会長挨拶

護持役員会会長 加藤 高藏
謹啓 檀信徒の皆様におかれましては、日頃より薬王院護持活動に多大なご協力をいただき、誠にありがとうございます。

私は薬王院様・吉田神社様の総代会長として日々の参詣や各行事を通して、神仏の御加護を頂戴していますことを本当に有り難く、心から感謝しております。

今年ほどその気持を強くした年はありません。本年三月に発生した東日本

大震災により、茨城県も大きな痛手を受けました。皆様方のご自宅、会社、そして薬王院も本堂をはじめ回向堂、境内外塀等各所に甚大な被害があり、檀信徒墓地も大変な状況でした。被災された皆様には心からお見舞いを申し上げます。

私個人も少なからず被害を受け、気が落ち込んだ時期がありましたが、彼岸会をはじめお寺の仏事において、御住職にお経をあげていた。たく毎に自分をとり戻してきたような気がいたします。神仏の御加護に感謝し、そして、今生きている事を素直に喜び、これからも前を向いてがんばっていくと考えております。皆様方も同じようなお気持ちでなかるうかとお察しいたします。

お寺、墓地の復旧にはまだまだ時間を要するものと思われませんが皆様方には無理をなさらず、時間をかけて修復なさる事をお勧めいたします。

年後半の行事については、余震が心配されますが、御住職、事務局の皆さんをはじめ役員一同で綿密に打ち合わせさせて無理のない範囲で実施する予定でありますので皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

最後となりましたが、薬王院の復旧と発展、檀信徒皆様のご健勝を祈念し、挨拶いたします。

合 掌

◆役員紹介

寺の事業・行事の運営にご協力を頂いております護持役員各位は、昨年度二名が逝去退会、一名が退会され、二名の方が入会され四十五名です。本年度改選され、新役員となりますので、ご芳名を紹介いたします。

退会者芳名

顧問 故 住谷 英夫
総代 故 佐藤 久次
世話人 根本 弘

現役員芳名

顧問 笹沼 雪子
会長 加藤 高藏
副会長 大川 洋一
副会長 打越 芳男
副会長 笹沼 隆史
事務局長 飯村 義雄
運営相談役 岡野 博親
同 大津 和一
事務局会計 五十嵐達太資
事務局 川崎 次男
事務局 照山 洋
同 大塚 義雄
同 中村 まさ
同 村井 京子
同 笠井 紀子
同 荻原 徹夫
同 井坂 照夫

(敬称略)

総代

庄司 みね
海老沢忠明
同 遠西 達男
同 小室 貞夫
同 山野内五郎
同 吉田 仁
同 柏原 正雄
同 佐藤 安彦
同 山野内吉明
同 加藤 正藏
同 荻原 昭三
同 荳司 一徳
同 田口 文明
同 沼尻 久
同 皆川 憲弘
同 渡辺 政明
同 鈴木 久
同 三村甚三郎
同 堀江 富雄
同 鈴木 薫
同 菊池 三郎
同 栗原 明
同 栗原 義弘
同 本田 昭成
同 伊藤 興一
同 笹沼 浩一
本年度入会
世話人 加藤 美嗣
同 小室 昌一

行事のご案内

一、御田植祭―薬師如来示現会

旧暦六月十一日はご本尊薬師如来様のご縁日です。

田植えの五穀豊穡を願い、参拝・志納の皆様各願成就を祈り毎年開催しております。旧暦ですので、毎年期日が変わります。

本年は、「平安の心を以て復興を祈る」を主眼として、七月十一日、午後四時から午後八時まで開催いたします。午後五時より、ご本尊をお開帳し、各願の成就と復興を祈り、護摩供養を厳修します。



御田植祭

尚献灯のちようちん・あんどん(子供用)をご奉納頂いております。どうぞ、ご家族一緒に薬師如来とお会い頂き、各願成就をお祈り下さい。



二、御盆 新盆の方 新盆供養会

その年新盆をお迎えの御精霊に百味

(いろいろな食物) 飯食をお供えし、お塔婆を書きご供養して、ご冥福と功德円満をご回向いたします。

□期 日 八月十三日

□時 間 午前十時三十分～

□場 所 薬王院回向堂

同書院 控室

□申 込

同封の申込はがきに必要な事項をご記入頂き、七月末までにご返信下さい。

□布 施 三万円(見当)

青色郵便振替用紙にて前納下されれば幸いです。

□付 記

当日は、お供物をご持参下さい。墓参の方で駐車等混みますので、お早めにご来寺下さい。
欠席の場合は、お塔婆をお預かりしておりますので、後日ご来寺下さい。

三、御盆 檀信徒全員 御施餓鬼会

仏教で説く六道苦の一つ、餓鬼世界に、百味飯食をお供えし、その功德を各ご先祖・精霊に回り向け、報恩謝徳功德円満を祈るお盆のご法要です。

□期 日 八月十五日

□場 所 薬王院回向堂

□日 程 法 要 十時半～
法 話 十一時半～

塔婆渡し 十二時～五時

当日欠席でご来寺できないお方は、秋彼岸までお預かりしておりますので、取りにお立ち寄り下さい。

□申込と納金

お申込の塔婆本数が増え、準備の日数を要しますため、既に書き始めております。

毎年のお申込登録済みの方は、同封赤色振替用紙に記載されています。

新たにお申込の方、変更あるお方は、同封のはがきにご記入頂き、七月末日までに切手をはってご返信下さい。

四、秋彼岸御中日法要

彼岸のお中日に、檀信徒先祖総回向のご法要を厳修いたします。法要中は、ご焼香ができますのでご参拝下さい。

□期 日 九月二十三日

□時 間 十時半～十一時半まで

□場 所 薬王院回向堂



御施餓鬼会

お知らせ

一、前納・振替制のご案内

- ① 護持費 一万円
 - ② 施餓鬼会塔婆 一本に付 一万円
- 護持費やご供養される施餓鬼塔婆は、檀信徒の方に寺の運営維持を支えて頂く、お布施と同様大切な浄財です。
一昨年より郵便振替による前納制をご協力頂きまして、台帳受付の緩和ができました。

本年も、お盆に限りご協力をお願いします。

郵便振替赤色用紙（手数料は寺が負担）に、護持費・お施餓鬼塔婆の金額をご記入の上、ご納金下さい。ご参考までに通信欄に納金額を記入してあります。

新盆の方は、青色（手数料は施主負担）の用紙を同封いたします。

なるべく、八月五日までにご納金のご協力をお願いします。

二、墓地再整備について

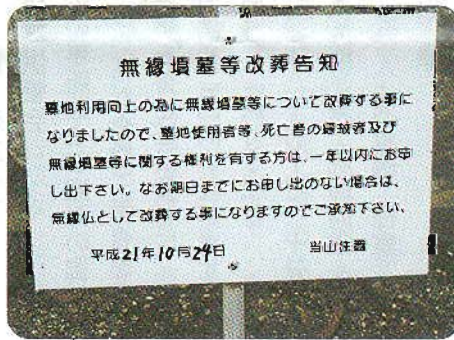
代表者（施主）の不明、護持費滞納の墓地は、無縁化を心配しております。

不明の墓地に立て札を置かせて頂き、施主の再確認を行った上で、一昨年十月から一年間は、お申出のない墓地に墓地进行を返還頂き、お骨を永代供養墓に

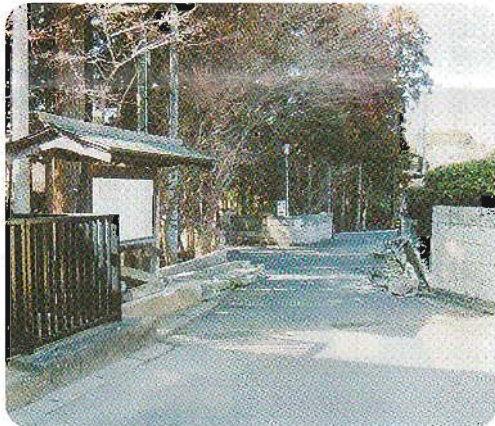
改葬する旨の札を立て、官報に掲載し、手続きを行いました。

本年より少しづつ無縁墓の整備と、お骨を納める墓の施工を進めております。

寺の被災写真



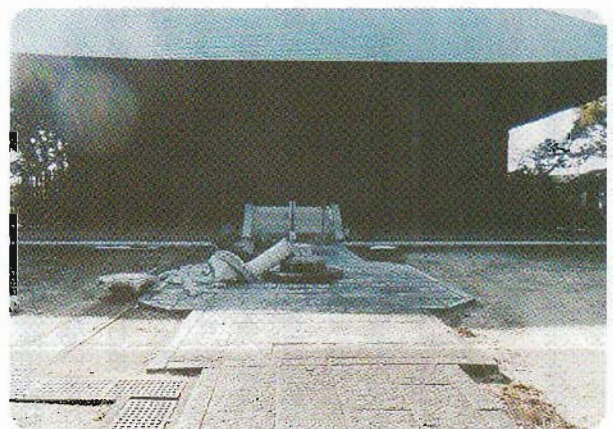
無縁立て札



3頁④ 仁王門より境内に入る道



3頁⑨① 歴代墓地



3頁① 本堂前石灯籠



3頁⑩ 五輪塔



3頁⑨② 無縁墓碑